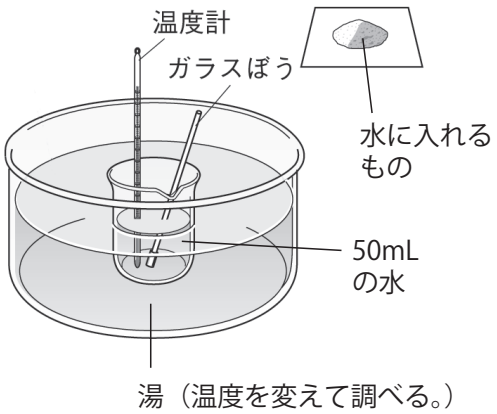
月　日

水の量や温度によるちがい（３）

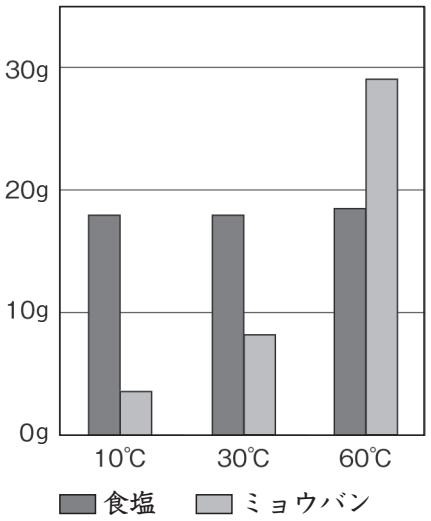
名前

1 図Aのように、50mLの水を入れたビーカーを湯につけ、水の温度を上げたときのもののとけ方の変化を調べました。図Bのグラフは、この実験で食塩とミョウバンについて調べた結果です。次の問いに答えましょう。

A



B



(1) 10℃の水にとける量が多いのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（　食塩　）

(2) 30℃の水にとける量が多いのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（　食塩　）

(3) 60℃の水にとける量が多いのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（ミョウバン）

(4) 30℃の水に 10gの食塩とミョウバンをそれぞれ入れてかき混ぜると、とけ残りが出るのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（ミョウバン）

(5) 60℃の水に 20gの食塩とミョウバンをそれぞれ入れてかき混ぜると、とけ残りが出るのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（　食塩　）

(6) 水の温度によってとける量が大きく変化するのは食塩、ミョウバンのどちらですか。（ミョウバン）

2 次の(1)～(3)の文は、水の温度とものが水にとける量との関係について書いています。（　）の中の正しいほうの言葉に○をつけましょう。

(1) 食塩は、水の温度を上げたときのとける量が（大きくふえる・ほとんど変化しない）。

(2) ミョウバンは、水の温度を上げると、とける量が（ふえる・へる）。

(3) 水の温度を変化させたときにものが水にとける量の変化のしかたは、とかすものによって（ちがう・ちがいがない）。

© ちびむすドリル　この学習プリントは、ちびむすドリル 検索 で無料ダウンロードできます。